

平成27年度全国学力・学習状況調査に係る福島県の結果（概要版）

H27.9.2 福島県教育委員会

1 調査に関する概要

実施日	平成27年4月21日（火）	
実施校数	小学校 453 校 (16,436 人)	中学校 227 校 (17,221 人)
調査学年	小学校 6 年生	中学校 3 年生
調査教科	小学校 国語、算数、理科	中学校 国語、数学、理科

※ 特別支援学校（小学部）及び特別支援学校（中学部）を含む。

2 教科に関する調査の結果

《教科に関する調査の結果の総括（公立）》

- 今回の調査結果については、小学校国語及び小・中学校理科はおおむね全国平均であるが、中学校国語は全国平均をやや下回っており、小学校算数及び中学校数学は全国平均を下回っている。
- 今後も、知識・技能のより確実な定着とそれらを活用して課題を解決する力の育成に取り組む必要がある。
- 日頃から「わかる・できる授業」を目指すとともに、児童生徒の思考力・判断力・表現力等を高めるための学習指導の改善により一層取り組む必要がある。
- 児童生徒の学力や学習状況を多面的に分析し、児童生徒一人一人へのきめ細かな支援や学習状況の改善等に取り組んでいく必要がある。

（1）小学校 国語

- 国語Aの平均正答率は71.0%（全国70.0%）、国語Bの平均正答率は65.3%（全国65.4%）であり、小学校国語については、おおむね全国平均である。
- 今後は、目標を達成させるための効果的な言語活動を授業に位置付けながら、基礎的・基本的な知識・技能のより確実な定着とそれらを活用して課題を解決していく能力を一体的に育成していく取組を充実させていく必要がある。

① 国語A（主として「知識」に関する問題）

	児童数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	16,434	453	71.0
全 国	1,061,264	20,004	70.0

② 国語B（主として「活用」に関する問題）

	児童数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	16,430	453	65.3
全 国	1,061,093	20,003	65.4

(2) 小学校 算数

- 算数 A の平均正答率は 74.3 % (全国は 75.2 %)、算数 B の平均正答率は 42.4 % (全国は 45.0 %) であり、小学校算数については、全国平均を下回っている。
- 今後は、基礎的・基本的な知識・技能のより確実な定着とそれらを実生活の様々な場面に活用する力や筋道立てて考え表現する力の育成に向け、一層効果的な指導方法を工夫していく必要がある。

① 算数 A (主として「知識」に関する問題)

	児童数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	16,434	453	74.3
全 国	1,061,301	20,004	75.2

② 算数 B (主として「活用」に関する問題)

	児童数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	16,432	453	42.4
全 国	1,061,063	20,001	45.0

(3) 小学校 理科

- 理科の平均正答率は60.7% (全国60.8%) であり、小学校理科については、おおむね全国平均である。
- 今後は、観察・実験後に、自分の予想や仮説と結果とを照らし合わせて考察をしたり、他者の考えを認識し、自分の考えを改善したりするような活動を一層重視する必要がある。

	児童数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	16,436	453	60.7
全 国	1,060,792	19,861	60.8

(4) 中学校 国語

- 国語 A の平均正答率は75.2% (全国75.8%)、国語 B の平均正答率は64.5% (全国65.8%) であり、国語 A については、おおむね全国平均であるが、国語 B においては、全国平均をやや下回っている。
- 今後は、目標を達成させるための効果的な言語活動を授業に位置付けながら、基礎的・基本的な知識・技能のより確実な定着とそれらを活用して課題を解決していく能力を一体的に育成していく取組を充実させていく必要がある。

① 国語A（主として「知識」に関する問題）

	生徒数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	17,221	227	75.2
全 国	1,016,451	9,689	75.8

② 国語B（主として「活用」に関する問題）

	生徒数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	17,215	227	64.5
全 国	1,016,575	9,689	65.8

(5) 中学校 数学

- 数学Aの平均正答率は61.2%（全国64.4%）、数学Bの平均正答率は38.1%（全国41.6%）であり、中学校数学については、全国平均を下回っている。
- 今後は、数学的活動をより一層重視し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる指導の充実とそれらを活用する力の育成に向けた指導の工夫・改善を図る必要がある。

① 数学A（主として「知識」に関する問題）

	生徒数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	17,219	227	61.2
全 国	1,016,737	9,687	64.4

② 数学B（主として「活用」に関する問題）

	生徒数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	17,215	227	38.1
全 国	1,016,548	9,687	41.6

(6) 中学校 理科

- 理科の平均正答率は52.5%（全国は53.0%）であり、中学校理科については、おおむね全国平均である。
- 主として「知識」（基礎的・基本的な知識・技能）に関する問題は、全国の平均正答率を上回っているものが多い。しかし、主として「活用」（知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等）をみる問題については全国の平均正答率を下回っているものが多い。今後は、科学的な探究の過程を踏まえ、知識・技能を活用して課題を解決する授業展開に心がけていく必要がある。

	児童数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	17,217	227	52.5
全国	1,016,572	9,689	53.0

3 児童生徒質問紙調査の結果

〈質問番号〉：(23)

「家で、学校の授業の復習をしていますか」について

- 家で、学校の授業の復習をしている小学生の割合は 70.5 %、中学生の割合は 63.7 %であり、どちらも全国の割合（小：54.5 %、中：52.0 %）より高い。
また、26年度調査と比較すると、復習をしている割合が小学生で0.9ポイント、中学生で2.1ポイント高くなっている。
- このことから、家庭においてその日の授業を振り返り、学習内容の定着を目指し、努力する子どもたちの姿が見える。授業と家庭学習の関連が図られてきているが、今後は、家庭学習が質的により充実したものとなるよう各学校が積極的に具体的な支援を一人一人の子どもに対して継続的に行うことが大切である。

〈質問番号〉：(13)

「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」について

- 学校の授業時間以外の1日当たりの学習時間については、月～金曜日に1時間以上学習している小学生の割合は 72.4 %、中学生の割合は 73.0 %であり、どちらも全国の割合（小：62.7 %、中：69.0 %）より高い。
また、月～金曜日の学習時間が30分より少ない、または全くしない小学生の割合は 6.3 %、中学生の割合は 9.2 %であり、どちらも全国の割合（小：12.1 %、中：13.9 %）より低い。
26年度調査と比較すると、1時間以上学習している割合は、小学生で0.7ポイント、中学生で1.7ポイント高くなっている。
- 子どもたちの家庭における学習習慣は定着してきているが、今後もさらに学習時間の確保や子ども一人一人に合った学習内容に取り組みさせるなど、質的向上に向け、なお一層、家庭との連携を図っていくことが大切である。

〈質問番号〉：(11)

「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」について

- 月～金曜日にテレビゲームを2時間以上している小学生の割合は 30.5 %、中学生の割合は 35.9 %であり、小学生の割合は全国の割合（30.2 %）より高く、中学生の割合は全国の割合（36.3 %）より低い。
26年度調査と比較すると、月～金曜日にテレビゲームを2時間以上している割合は、小学生で0.9ポイント低く、中学生で1.5ポイント高くなっている。
- この現状から、小・中学生ともにテレビゲームをする時間をさらに減らし、その時間を家庭学習や読書の時間に充てさせるなど、時間の有効活用について家庭と連携した取組をしていくことが大切である。

4 生活圏別平均正答率の状況

- どの教科においても地域ごとの平均正答率に大きな差は見られない。各地域、各学校で学力向上に取り組んだ成果が見られる。
- 全国や福島県の平均正答率を上回っている科目や下回っている科目については、地域ごとに異なる特徴が見られる。それぞれの地域の成果と課題を詳細に分析して、地域の実情に応じた授業改善等に向けた具体的な取組を更に強化していく必要がある。



